

## 梅窓院通信

No.134  
2025/01/01

青山

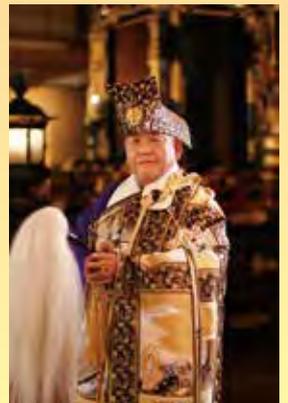


最勝宝塔と松に梅

## 住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島 真成



新年、明けましておめでとう  
ございます。本年も皆様にとつて  
良い一年となることをご祈念申  
上げます。梅窓院もより良い  
お寺となりますよう努力いたしますので、何卒よろしくお願い申し上  
げます。

さて、昨年秋頃に第四十八回「正力松太郎賞」の表彰式に水月会会長  
として出席した時のことです。たまたま梅窓院の顧問弁護士である長  
谷川正浩先生とご一緒することとなりました。その席での雑談中、「住  
職をあと三年勤め、七十歳になったら副住職に譲るつもりです」と話  
したところ、先生が「何を言っているのですか、七十歳で退くなんて早  
すぎる。特に僧侶は歳を重ねることで、より魅力が増す最たる仕事で  
はないですか。十年は延ばしなさい」ときつく言われました。長谷川先  
生は八十三歳。私より十六歳も先輩です。

こうした先輩、しかも梅窓院の顧問弁護士として長きにわたり色々  
な角度から寺を見守ってきたいただいた先生です。その先生からのア  
ドバイスを熟慮し、まだしばらく住職を勤めることにいたしました。  
年頭にあたり、皆様にご報告させていただきます。

さて、墓苑内の整備のお知らせです。墓苑内通路の改修工事が順調  
に進み、去年までに予定の半分近くが施工され、一段落しました。残り  
は春彼岸以降、四月から工事に入りますので、引き続きご理解、ご協力  
をいただきますようお願い申し上げます。

また、樹木葬の梅林苑ですが、梅の木の手入れ等の作業のため、一月  
に十日間程の根回し作業から始まります。梅林苑にお参りされる方は受  
付にご相談ください。よろしくお願いたします。

最後になりましたが、元旦のおもてなしについてです。大きな行  
事・法要には楽しみが付き物と、梅窓院では修正会の元旦にはおせち  
料理、十夜会には芋煮を振る舞って参りましたが、昨今の社会状況を  
鑑みて食事提供はやめさせていただいております。今年も元旦では  
温かいお茶のペットボトルを、新年のお参りに来られる皆さまに用  
意させていただきます。こちらでもご理解いただきますようお願いい  
たします。

# 罪は罪 — 懺悔する勇氣を

長野市十念寺住職 袖山 榮輝

注：連載の「法話 仏教時風物語」は著者の都合により今回休載させていただきます。以前の法話シリーズを掲載いたします。

**仏** 教では戒律を破れば罪とな  
る。しかし懺悔をすれば許  
されその報いが浄化される罪もある  
という。

その第一に挙げられるのがお釈迦  
さまの一人息子、ラゴラにまつわる  
「故妄語」、故意に嘘をつくことだ。  
もちろん浄土宗においては阿弥陀さ  
まの念仏往生の本願はどんなに罪深  
い身であつてもお救いくださるとす  
る。

しかし、法然上人はその罪深さ故  
に「みだりに我が身を軽しめること  
はかえって本願を疑うことになる  
（『浄土宗略抄』）」とおっしゃつた。罪  
深い己が本願を仰ぐには懺悔が必  
要なのだ。

もともとお釈迦さまは古代インド  
の小国を統治していた釈迦族の王子  
であつた。その時に誕生したのがラゴ  
ラである。釈迦は彼が誕生するや否  
や出家の道を選んだ。そののち釈迦  
がわが子と再会を果たしたのは、自  
ら悟りを開き仏となられてからのこ  
と。ラゴラはすでに九才であつたとさ  
れる。

王子不在の釈迦族にあつて、幼いラ  
ゴラは一族や王国の命運を一身に背  
負つたであらう。詳細は省くが、再会

した我が子の内面に釈迦は欲望に  
囚われた傲慢な人間の萌芽を見て  
しまった。その将来を案じた釈迦は  
九才のわが子を出家させたのであ  
る。

しかしながらラゴラはまだ子供。  
無邪気な悪戯が愛らしくもあつたで  
あらうが、時には釈迦の息子である  
こと、一国の王子であることを鼻にか  
けたという。「周囲からもっと大事に  
されたい、父親にもっと甘えていた  
い」という寂しさが小生意気な言動  
にあらわれたのかもしれない。

しかし釈迦は一向に彼を特別扱い  
しなかつた。ラゴラの心の奥に潜む傲  
慢さの芽を摘み取つたのである。だ  
が、彼の甘えた振る舞いはついに周囲  
を困らせる事態に至つた。

ラゴラが嘘をついたのだ。人に釈迦  
の居場所を尋ねられてもわざと見当  
違いの場所を教え、その人が疲労困  
憊する様子を眺める。しかも挑戦的  
な不遜な態度で相手の文句を待ち  
受ける。

どうしてなのかは知る由もない。  
あるいは自分自身への満ち足りな  
さ、虚しさが己への嫌悪感となつて自  
ら喘いでいたのであらうか。ともかく  
度重なる嘘に人々はラゴラを嫌い、軽

蔑するようになっていた。

機が熟したと見られたか、ついにお  
釈迦さまはラゴラを訪ね、嘘は他人  
を困らせるだけではない、己の心も、  
そして未来も傷つけると論じた。も  
し自分を大切にしたいのなら己の心  
をよくよく省み、懺悔すべきは懺悔  
する勇氣が大切である。その勇氣さ  
えあれば悪業の報いを離れた清らか  
な生活が送れると説いたのである。

嘘をつかないこと、そのこと自体が  
自分も他人も正しく導く。たとえ  
嘘をついたとしても懺悔する勇氣さ  
えあれば傲慢な心を打ち砕くこと  
ができる。自分を大切にしろ。切な  
る父の願いと感じたのであらうか、  
長じてラゴラは人知れず修行に励む  
謙虚な行者となり、「蜜行第二」の行  
者と讃えられるようになったと伝え  
られている。

文部省の調査によれば、父親から  
「嘘をついてはいけない」と教わつてい  
ない子供が全体の七十%、同様に母  
親からは六十%であるという。嘘は  
罪業である。懺悔をしない限りその  
報いは必ず来る。そして自らを軽し  
め自暴自棄に振る舞う。子供たちに  
そんな未来が訪れぬように切に願う  
今日だ。

## 九・十一月の

### 行事報告

秋彼岸会法要

彼岸寄席  
9月22日(日)

第87回  
念仏と法話の会  
10月10日(木)



多くの方がお墓参りにいら  
しゃいました。



ベトナム慰霊法要



秋彼岸寄席  
三遊亭歌る多師匠



十夜法要・法話  
特別ライブ  
11月16日(土)



# 修正会

2025年1月1日 (水)

## 修正会法要

午前10時～ 2階 本堂

※行程や場所は変更になる場合がございます。

※元日に温かいお茶の配布をいたします。なお、数に限りがございますので予めご了承ください。

**絵馬について** 新年のお参りに来ていただいた方にお配りしている絵馬は、元日のみ1軒に1体のお渡しとさせていただきます。  
2体以上ご希望の方は事前に文書(FAXかハガキ)でお申し付けください。  
2体目から1体1000円でお譲りいたします。

**曆について** 各檀信徒の皆様へ1部同封させていただきました。  
2部以上ご希望の方はこちらに文書(FAXかハガキ)にてお申込みください。  
2部目から1部1000円でお譲りいたします。

### 修正会とは

新年を迎えて最初の法要が修正会です。浄土宗では祝聖文という回向文を称えます。天下泰平、平穏な日々を願う言葉が並び、昔は石棺などにも彫られていました。

### 修正会によせて

新年をお迎えする時期になりました。皆様はいかがお過ごしでしょうか。

増上寺で聖書伝授道場に入行して参りました。聖書とは浄土宗僧侶の資格のひとつです。聖とは玉璽の璽。三国志にも出てくる中国の歴代皇帝が持っていた印のこと。璽が皇帝から皇帝へ代々受け継がれたように、浄土宗の秘伝の教えが違ふことなく師匠から弟子へ相伝されたことの権威を示し、その証明として押印した許状を聖書といいます。僧侶として独り立ちするための加行道場成満から5年以上研鑽を積んではじめて入行でき、加行道場では一受者として受けたものを今度は道場を開く側の立場で経験しました。これにより、皆様を正式な仏弟子にする授戒会や正式に浄土宗の教えを授ける五重相伝会などの道場をお開きする資格を得ました。

多くの学びがある中、印象に残ったのは懺悔会です。正式な仏弟子となる授戒道場の前に行い、これまでの罪を仏様方の御前で懺悔し、身を清め、堂内を真っ暗にするので、暗夜道場ともいいます。生死を繰り返してしまふ根源的な煩惱——無明(智恵がなく暗い愚かさ)——の闇の中を受者が孤独に一人ずつ、阿弥陀様の前に進みます。そして、事前に署名しておいた懺悔紙に文字通りこれまでの罪を擦り付けて仏前に捧げ、道場係の僧侶が懺悔文を唱えながら、懺悔紙は焼き清められます。恥ずかしながら、以前の道場では、懺悔紙を忘れて道場に入ってしまった……。この道場で漸く罪が焼き清められ、その炎は以前の道場より、気のせいなのか、盛んに大きく燃えているようでした。やっと罪が燃え、これからは少しでも身を清らかに保ちたいと願うと同時に、儀礼の持つ力を感じ、より一層、一座入魂の思いでお勤めする気持ちも新たにできました。

当院では生前戒名を希望される方が多く、授戒会で正式な仏教徒になつていただき、お戒名を授与するのが本義なので、いつか授戒会道場をお開きしたいと思っております。興味がお有りの方は、その旨をお知らせいただければ大変ありがたいと存じます。

さて、修正会は世の中と各々個人が安穩で、清らかであることを願う法会です。一年の垢を懺悔で落とし、晴れやかな気持ちで一緒に前にお念仏できますことを楽しみにしています。

(副住職 中島真紹) 合掌

# 年末年始の過ごし方

本紙がお手元に届く頃は、令和七年を控えた年の瀬ですね。季節感が薄れていく中、年末年始の行事は最も存在感のある行事ではないでしょうか。そうした年末年始の過ごし方のご案内です。

## 念仏の中、新年を迎える

昔、まだ時間という概念がない頃は太陽の昇り降りて一日の初めと終わりを決めていました。夕方日が沈んで、暗くなると一日が終わり、同時に次の一日が始まる。ですから昔は大晦日とお正月は同じ日で、ひと続きの行事がありました。

そうした行事をお念仏にすれば、大晦日からお正月にまたがる別時念仏会ができますね。「ただ一向に念仏すべし」を大切にすると浄土宗なので、これが一番良い年末年始の過

し方です。

慌ただしい年末年始の、大晦日の23時55分からお正月の0時5分までの10分だけでも大丈夫。お念仏の中で迎える新年は間違いない心に残ります。ただし、あくまでご無理なさいませないように。

ですが、その前後にはやはり日常生活で欠かせない事がありますね。

## 年末の大掃除では

### 仏壇をお忘れなく

大晦日は一年の締めくくり、お正月を気持ち良く迎えるためにも、大掃除は欠かせません。そこで忘れてはならないのが、仏壇のお掃除です。

いまある命はご先祖さまから授かったもの。この「ご先祖あつての自分」という当たり前のことを再認識するためにも、仏壇の前で手を合わせ、お念仏を十回唱えてからお掃除にとりかかりましょう。取り出した仏様や位牌を戻す時のために、仏壇

の中のお像やお位牌の置き場所を説明しましょう。

最上段は仏様の定位置です。中央に阿弥陀さま、向かって右に観音菩薩さま、左に勢至菩薩さま、さらにその右に善導大師さま、左に法然上人さま。お像でも絵像の掛け軸でも構いませんが、これが理想。全部揃えると、そう、まさにお寺の本堂の縮小版になります。これは無理でも、できれば、阿弥陀さまだけでもご安置ください。

上から二段目にはご先祖さまのお位牌を並べます。新しい方を中央、次の方が向かって右、そして左、再び右、左と交互にします。

お位牌が多いという方は、それだけ家が繁栄し、子孫も先祖を敬っている証ですから、喜ばしいことです。それでも増えすぎた時はいくつものお位牌をひとつにまとめられる繰り出し位牌にまとめましょう。お戒名を書いた薄い板を重ねて入れられる奥行きのある位牌です。その下にはお供物。基本は故人が

座すがごとくで朝昼晩が理想ですが、無理なく供えましょう。ご先祖さまはお供え物の香りを楽しまれます。頃合を見て皆さんで召し上げるのがいいですね。

そして一番下の中央に香炉、向かって右に灯明（蝋燭）とお線香、左にお花を供えます。

鈴は右手前ですね。お参りするときは、鈴を一回から三回の好きな数を鳴らし、心を落ち着かせ、合掌してご先祖さまに感謝し、お念仏を唱えます。



見本となる仏壇。

小さい仏壇の場合も上段は仏様だけにしましょう。

### 仏道修行の大敵、煩惱を払う

年の暮れの除夜の鐘は、ご存じのように煩惱を振り落とすための儀式です。仏教では煩惱が生んだ自分の罪を悔い改める事、懺悔を大切にしますが、これは浄土宗が21世紀に向けて提唱した宣言、「愚者の自覚を

家庭にみ仏の光を 世界に共生を」の最初の愚者の自覚をにつながります。仏教では実際に行わなくても口に出したり、心の中で思ったことも、実際に行ったことと同じ、と考えます。そうするとどうでしょう。身の回りは色々な良からぬことだらけではないでしょうか。

こうした数え切れない罪を消し去り、心身ともに清浄にしてくれるのが鐘の音です。普段の法要の鐘の音にもこうした思いが込められているのです。

### 初詣は神社でもお寺でも

お正月の初詣、参拝客の人数が話題になりますが、関東での一番人気は明治神宮、その後に成田山新勝寺、川崎大師、浅草寺とお寺が続きます。初詣は神社仏閣を問いませんので、初墓参りを兼ねての菩提寺へ

の初詣はいかがでしょうか。

梅窓院でも元旦には修正会を厳修し、絵馬を一軒に一体差し上げております。



梅窓院でお渡ししてきた絵馬。

### 喪中にお正月があつたら

仏教では人の死を忌み嫌いません。なぜなら、死は誰でも迎える当たり前のことです。逆に神社は死を忌み嫌います。家から死者を出すと神棚には白い布をかけます。

一方、仏壇は閉めることなく普段と同じです。また葬儀後にお清めの塩を渡されるのもお清めですから、お坊さんは受け取りません。このように、死に対しては神社とお寺は真逆に捉えています。

ですので、喪中時の初詣はお寺にお参りしましょう。それが菩提寺であればご先祖さまに、こちらから一人往生しました。そちらに参ります。よろしくお願ひします、と報告をしても良いでしょう。浄土宗の教えには「俱会一処」と言つて、彼岸、あの世で先に旅立たれた方とお会いできるとお教えしています。

また喪中では年賀状を控えるように、お祝ひに関わることは避けるのが慣わしです。

### お正月に相応しいお経

最後に覚えて欲しいお経の話です。

祝聖文という、正確にいうとお経ではなく偈文(語句)と言いますが、

天下和順 日月清明 風雨以時  
災厲不起 国豊民安 兵戈無用  
崇徳興仁 務修礼讓

この偈文、以前の本紙面でも紹介しています。並んでいる漢字からも推察できるかと思いますが、ぎゅっとまとめると、

世界が穏やかで平和、  
国も人も豊かで  
戦争もなく徳や礼が  
満ちますように

という、お正月にぴったりの偈文です。もちろん梅窓院の修正会でも唱えますので、耳でもお確かめください。

それでは、令和七年が皆さまにとって良い一年になりますように。

修正会では本堂を正月飾りにし、太鼓を叩きながら祈願のお経をあげます。



丸亀製麺をご存知でしょうか。郊外に多くの店舗を構えています。一駅隣の表参道にもお店がある超人気のうどん店です。世界各地で約1100店舗以上を展開しています。日本国内すべての店舗には麵職人がいて、いつでも打ち立てのうどんを提供してくれます。この丸亀製麺の創業者・に  
ご登場いただきました。

◆本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。  
ごさいます。

いいえ、会社にお越しいただき、お礼を言うのは私のほうです。

◆早速ですが、梅窓院を知ったきっかけをお教えてください。

少し前のことで正確に覚えていませんが、お墓の案内チラシかホームページでした。憧れの東京、しかもそのど真ん中の青山ですから、すぐ見に行きました。

◆檀家になられた理由をお教えてください。

はい、私は兵庫県の加古川の出身なのですが、小学生の時に、警察官の父に東京に連れて来てもらったことがあり、その時の東京がとても印象的で、以来ずっと東京への憧れが続いたので決めました。

◆ずいぶん長い間ですね。

そうですね(笑)。その父は私が13歳の時に亡くなり、兵庫の菩提寺に眠っています。兵庫にいた時はもちろんですが、東京に来て10年、いまでも毎月、兵庫のお墓参りは欠かしません。

◆毎月ですか、お忙しい中なかなか大変かと……。

私の父は香川県の出身で、香川県を訪れた時に製麺所に入り、その製麺所の行列に魅せられて丸亀製麺を立ち上げました。父のゆかりの土地がきっかけで始めた手づくりのうどん店は大成功しました。

◆日本国内に851店、海外に283店。まさに世界のうどん店でのトップリーダーですね。(店舗数は2024年9月末時点)

おかげさまで。ですから私にとって父は特別な存在で、父のお墓の前で手を合わせると、心が落ち着き、そしてまたエネルギーも漲るのです。ですから兵庫の菩提寺へのお参りはいつも待ち遠しいぐらいです。

◆兵庫の菩提寺はどなたがお護りになっているのですか。

父と同じ警察官だった兄が護ってくれています。ですので、次男の私は憧れの東京で住まいもお墓も求めることができました。



素敵な家具やインテリアに囲まれた株式会社トリドールホールディングス。



おしゃれなオフィスにてお話しを伺いました。

◆そうですね。お墓参りに行くことを大切にされているのですね。

はい、私が父への感謝の思いで毎月墓参りしているように、将来子供や孫が私に同じ思いを持ってくれたとしたら、梅窓院さんのお墓ほどお参りしやすいお墓はないでしょうから。

◆間違いないですね。は今63歳。人生百年時代と言われていますが、これからの夢は。

まずは、今の丸亀製麺の基盤をよりしっかりすることです。一般的なチェーン店のセントラルキッチン方式とは異なりますので、美味しさを保ち続けるには努力と工夫が欠かせません。次のステップは内緒です(笑)。

ということで、子供の頃から憧れている青山の地に眠るのはまだ、だいぶ先かと(笑)。

◆そうですね、今後のさらなるご活躍を楽しみにしております。本日はありがとうございます。



手づくりできたての美味しさを届けるために常に情熱を注がれている 社長。

## プロフィール

トリドールホールディングス創業者・代表取締役社長。1961年、兵庫県生まれ。神戸市外国語大学中退。学生時代のアルバイト経験から飲食業に魅力を感じ、1985年に焼鳥居酒屋「トリドール三番館」を創業。2000年にセルフうどん業「丸亀製麺」を開業。チェーン店の常識を覆す数々の挑戦で顧客の心をつかむ。

# 青山散歩道

## とんかつ ここまでやるか。

梅窓院から徒歩5分の場所にある「とんかつ ここまでやるか。」は、外苑前の人気イタリアン「malca」の姉妹店として今年3月上旬にオープンしたとんかつ専門店です。

思わず惹きつけられる店名は、プロデュースを手掛けた「malca」の北野司シェフが無類のとんかつ好きで、自分が納得のいくとんかつを提供するために信念を込めて名づけられました。

お店の名の通り、こだわりつくしており、豚の品種は一種類に限らず、三種類から選ぶことができます。付け合わせのキャベツは、とんかつの下に添えると

しおれてしまうため、別盛りで提供しています。味の決め手になるソースは熱々で提供し、ソース以外の薬味にもお肉に合う調味料を厳選し抜かりなくこだわっています。また、とんかつ以外にも、本マグロのフライや旬野菜のフライなど、他のメニューもおすすめて

さらに、お酒にもこだわりがあり、とんかつのお店では珍しくワインや日本酒等が充実しており、とんかつと一緒においしくいただけます。

ここ青山の地を盛り上げて行きたいと語る無類のとんかつ好きな北野シェフがプロデュースしたとんかつを、ぜひお楽しみください。



店舗は本紙にも登場した「天ぶら元吉」(現在は恵比寿)のままのカウンター席中心の高級感あふれる店内です。



営業時間  
ランチ 11:00~15:00(ラストオーダー14:30)  
ディナー 18:00~22:00(ラストオーダー21:00)  
ランチタイムもご予約が可能です。  
定休日/日曜日  
※最新情報は日曜日以外のお休みもございましてご確認ください。  
席数/12席(カウンター8席・4人掛けテーブル1席)  
住所/東京都港区南青山3-2-4  
セントラル青山No.6-BA  
TEL/03-6455-4185



お店おすすめの特上ロースとヒレ。奥がメンチカツ。本マグロのフライ。こだわりのある赤だしとごはん。

# 青山俳壇

選者「ウエップ俳句通信」編集長

大崎 紀夫

### ◎特選

○芋煮会まずは火起こしから伝授

### ◎入選

○秋蝶がふわりふうわり父母の墓

○新蕎麦を打つ音静かもう一献

○秋風や痛みのとれし肩回す

○白鷺と遠く目の合ふ刈田かな

○ワイパーを上げて窓拭く秋の昼

○墓参り大きテントが張つてある

○稲の穂を棒で叩いてゆく子供

○秋の夜のスーパームーン格別だ

### ◎選者誌

○鴉鳴いて仁王の腹に日が当る

大崎 紀夫

（ワンポイントレッスン）

前にもいいましたが、俳句は五・七・五の定型詩ですが、広く十七音詩と考へてもいいでしょう。今回特選の句は、五・九・三の十七音です。中七から下五にかけて「まずは火起こし」から伝授と、このところ言葉がまたがっていますが、調へは悪くありません。これを「句またがり」といいます。飯田龍太の有名な「二月の川」も「二月の谷の中」も「二月の川」の「：」と「の」のところまでまたがっています。こうした「句またがり」の句を試してみるのも楽しいものです。

### 投句募集

今回は「冬の季語」でご自由にお詠みください。1月4日(土)を締切、令和7年2月発送の『春彼岸号』にて発表いたします。郵送・FAX・メールのいずれかの方法で、ご応募ください。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承ください。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38  
梅窓院「青山俳壇」投句募集係  
FAX:03-3404-8436(梅窓院広報部)  
メール:bunkamura@baisouin.or.jp

### 「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡ください。

ウエップ編集室  
電話03-5368-1870

## 第九十七回

# 食は命

食養研究家  
武鈴子

平安時代の医学

毎年12月4日になると、翌年一年間分の皇太子用の薬を作るための薬草を、典薬寮が受け取りました。

典薬寮とは「くすりのつかさ」とも呼ばれ、令制の宮内省所管の官司のことで、官人の医療と医師の養成をつかさどるところ。

その朝廷・貴族社会の医療業務はすべてこの典薬寮が管掌していました。典薬頭の下、医師・針師・按摩師などが診療にあたり、医学教育も司って、医博士・針博士たちが医生・針生の教育にもあたりました。女医も置かれており、女性の外科や婦人科を担当。もち米とあわを原料とした白粉の製造を女医がおこなっていました。

典薬寮は12月末日、「臘月御薬」として、翌年に天皇が使う常備薬を調進しました。同時に「元日御薬」の屠蘇・白散も製造するため、典薬寮にとって12月は忙しい時期でした。

### <医師の苦悩>

紀長谷雄の祖父・国守が「内薬司」(皇族を診察する医師の役所。のち典薬寮に吸収される)の頭(長官)であったときの逸話が『古事談』にあります。

皇太子を診察したとき、硝石を用いた劇薬を投与しました。「服薬後には苦しめます。しかしその後には効果が出てきます」と注意したところ、実際に皇太子は悶絶。「帯刀」(皇太子護衛隊)から「もしも皇太子様に何かあったら、お前を殺すぞ」と脅されます。結果として皇太子の病気は治りましたが、国守は「もしも皇太子様が亡くなっていたら私も殺されていただろう」と医薬の厳しさを感じ、医師をやめて子孫にも継がさなかったというのです。

**お知らせ 消防訓練**

11月5日(火)梅窓院では消防訓練を行ないました。僧侶や職員が消火活動を実践し、より一層防災意識を高めました。



**行事予定**

**第88回念仏と法話の会**

2月17日(月)

時間 13時～(受付12時30分より開始)

法話 法然上人のみ教え 凡入報土

講師 静岡県熱海市 海福寺 瀧沢行彦上人

**令和7年 年間行事予定**

※予定は変更になる場合がございます。予めご了承ください。

◆修正会法要	1月1日(水)
◆第88回念仏と法話の会	2月17日(月)
◆春彼岸会法要・寄席・物産展	3月20日(木)
◆はなまつり	4月2日(水)～8日(火)
◆大施餓鬼会法要	5月17日(土)
◆開山忌法要	6月14日(土)
◆第89回念仏と法話の会	6月開催予定
◆盂蘭盆会法要	7月13日(日)
◆秋彼岸会法要・寄席	9月23日(火)
◆第90回念仏と法話の会	10月開催予定
◆十夜法要・ライブ	11月15日(土)
◆文化講演会	11月30日(日)

発行 梅窓院  
 発行日 令和7年1月1日  
 発行人 中島 真成  
 編集 梅窓院 広報部  
 住所 〒107-0062  
 東京都港区南青山2-26-38  
 電話 03-3404-8447  
 F A X 03-3404-8107  
 ホームページ <https://www.baisouin.or.jp/>  
 E-Mail [jodo@baisouin.or.jp](mailto:jodo@baisouin.or.jp)  
 題 字 中村康隆元浄土門主  
 総本山知恩院第八十六世門跡

**梅窓院のお墓とペット供養の窓口**

**ジャパンエキスパートシステム墓苑事業部からのお知らせ**

一年経つのは早いものです。今年もよろしく申し上げます。  
 先日、お檀家様とお話したのですが、コロナ禍もあったと思うけれども親しかった方の訃報を喪中ハガキで知ってとても切なかった、というお話しでした。今はご家族だけのお別れというのが多くなっている、親族もどこまで呼ぶか？ ご友人の誰にお知らせしたらよいだろうか？ ということになります。  
 その方は今までお悔やみはご葬儀などに参列されていたので、喪中ハガキ1枚でのお別れはもやもやすると仰っておられました。この話を伺う数日前に偶然、同じ話を友人としていたので、きっと同じような感情をお持ちの方も多いかもかもしれませんね。  
 「これからは年賀状の数も減るだろうから、喪中ハガキもきっと来ないわよね」「私の葬儀は盛大に送ってくれなくても良いけれども親しい友人には声をかけてね、と周りに伝えておかないといけなかしらね」私、友人は密かに終活用名簿を作った方が良いのかしら？ と話しました。  
 (墓苑事業部 森)

**令和6年度 後期 仏教講座のご案内**

受講無料・場所 梅窓院祖師堂

講座: 13時～15時(受付12時30分より)

講座: 般若経の私解私釈―「大乘仏教を理解する」シリーズ(11)

講師: 勝崎 裕彦 先生(大正大学名誉教授、香蓮寺住職)

第1回 12月19日(木)小品系般若経第八章品I―<随順品>の位相

第2回 1月16日(木)小品系般若経第八章品II―教説構造の解析

第3回 2月20日(木)般若経を学び習うこと―「随順」と「修習」

講座: 日本仏教の歴史⑤

講師: 林田 康順 先生(大正大学教授、大本山増上寺布教師、慶岸寺住職)

第1回 1月30日(木)本覚思想

第2回 3月 6日(木)末法と浄土教

講座: ご法事の「お経」を読む②

講師: 阿川 正貫 先生(浄土寺住職、大正大学講師)

第2回 1月17日(金)「歎仏頌」を読む

第3回 2月21日(金)「真身観文」を読む

講座: 「仏教民俗学」再考(2)

講師: 本林 靖久 先生(大谷大学、佛教大学講師、浄土真宗妙成寺住職)

第2回 2月 7日(金)仏教講―血縁と地縁―

第3回 3月 7日(金)仏教芸能―踊念仏と念仏踊―



勝崎 裕彦 先生 林田 康順 先生 阿川 正貫 先生 本林 靖久 先生

申込電話番号: 03-3404-8588(受付時間平日9～17時)

仏教講座の申込はこちらから▶

